

# 辞書引き学習の進め方（1年「漢字辞典」）

## 1 ねらい

- 漢字辞典を最大限に活用して、子ども達が自ら調べ・自ら学ぶ習慣と能力を身に付けさせる。
- 漢字に慣れ親しみ、漢字を読んだり書いたりする力を養い高める。

## 2 学習の進め方

### (1) 準備するもの

#### ① 自分の辞書

- \* 漢字辞典を身近な所に置く。
- ケースから出し、調べたくなったらすぐに調べられるように、手が届く範囲に置いておく。

#### ② 付箋

- 最初は学校で用意。以降は、各家庭に願います。

### (2) 指導の手順

<第1段階> 「音訓索引」で辞書を引き、学習の進め方を理解する。

#### ① 読み方が分かっている漢字を「音訓索引」で引く。

- ア 付箋を縦長にして、あらかじめ鉛筆で番号を書いておく。
  - イ 辞書のページをめくりながら、習った漢字を探す。(木、口)
  - ウ 漢字を速く探す方法を知る。(音訓索引)
    - \* 音訓索引の場所、音読み(カタカナ)と訓読み(ひらがな・送りがな)を教える。
  - エ 漢字の載っているページを漢字ドリルと比べ、違いに気付く。
  - オ 付箋の番号の下に漢字を書き、漢字の出ているページの上部に貼る。(文字を隠さないように注意する。)
- #### ② ①の他の漢字で、読み方の分かっている漢字を音訓索引で引く。
- 山、水、雨、上、下、……
  - ※ 番号と漢字を書いた付箋を辞書に貼る。

<第2段階> 「総画索引」で辞書を引き、辞書の引き方に慣れる。

#### ① 身の回りにある読み方の分からない漢字を「総画索引」で引く。

- ア 身近な人の名前に使われている漢字(児童の未習のもの)を辞書で探す。
- イ 読み方が分からない場合の漢字の調べ方に「総画索引」があることを知る。
- ウ 総画索引の場所を確認して、漢字の探し方を理解する。
  - \* 画数の少ない字から順に並んでいることを知る。
- エ 提示した漢字の画数を確認して、総画索引で探す。
- オ 見つけた漢字の下の数字のページに、漢字が載っていることを確かめる。

カ 他の漢字を総画索引で引く。(火、金、土、日、右)、左、耳、手、……)

※ 番号と漢字を書いた付箋を、忘れずに辞書に貼る。

② 担任の先生の名前の漢字を「総画索引」で引く。

ア 1組：久、保、清、美 2組：原、田、宏、美 3組：神、田、久、子

イ 身の回りから漢字を探し、「総画さくいん」で引く。

<第3段階> 「部首索引」で辞書を引き、辞書の引き方に慣れる。

① 身の回りにある読み方の分からない漢字を「部首索引」で引く。

ア 「校」と「村」をなぞり書きして、形が同じ部分を見つける。

イ 形が同じ部分を「部首」と呼ぶことを知る。

ウ 「部首索引」の場所を確認して、「木」を探す。

\* 画数の少ない順に並んでいることを知る。

エ 「木」を「き・きへん」と呼び、その下の数字が辞書に載っているページであることを確認する。

オ 「木」が付いた漢字の中から「校」と「村」を探し、辞書の何ページに載っているか確認する。

※ 番号と漢字を書いた付箋を、辞書に貼る。

② 身の回りにある読み方の分からない漢字を「部首索引」で引く。

ア 「蚊」と「蜂」をなぞり書きして、形が同じ部分を見つける。

イ 「部首索引」で「虫」を探す。

エ 「虫」を「むし・むしへん」と呼び、その下の数字のページに「虫」の付く漢字が載っていることを確認する。

オ 「虫」が付いた漢字の中から「蚊」と「蜂」を探し、辞書の何ページに載っているか確認する。

※ 番号と漢字を書いた付箋を、辞書に貼る。

③ 「笑」「筋」「笛」を「部首索引」で引く。

ア 「笑」「筋」「笛」をなぞり書きして、形が同じ部分を見つける。

イ 「」が「竹」から変化したことを知り、「部首索引」で「竹」を探す。

ウ 「」を「たけかんむり」と呼ぶことを確認する。

エ 「」が付いた漢字の中から「笑」「筋」「笛」を探し、辞書の何ページに載っているか確認する。

※ 番号と漢字を書いた付箋を、辞書に貼る。

<第4段階> 漢字に親しみ、辞書の引き方に慣れる。

① 自分や家族の名前に使われている漢字を3つの引き方のどれかで調べる。

ア 自分の氏名や家族の名前を、家で漢字で書いてもらってくる。

イ 書いてもらった漢字を、3つの辞書の引き方のどれかで引く。

※ 番号と漢字を書いた付箋を、辞書に貼る。

② 隣の子の名前に使われている漢字を3つの引き方のどれかで調べる。

ア 隣の子の氏名を漢字で書いてもらう。

イ 書いてもらった漢字を、3つの辞書の引き方のどれかで引く。

※ 番号と漢字を書いた付箋を辞書に貼る。

<第5段階> 部首や漢字、熟語に親しむ。

\* クイズ形式でいろいろな問題を出し、部首や漢字、熟語に親しませていく。

① 部首の意味に関心を持つ。

ア イラストと部首をいくつか示し、どのイラストがどの部首を表しているか想像する。

イ 「部首索引」を使って、部首の意味を調べ、確かめる。

② 部首の意味に親しむ。

ア 部首と部首の意味を書いた文をいくつか示し、どの文がどの部首に合うかを考える。

イ 「部首索引」を使って、部首の意味を調べ、確かめる。

③ 部首を漢字の中で使われている位置で仲間分けをする。

ア 漢字の中の「へん」「つくり」「かんむり・かしら」「あし」「たれ」「にょう」「かまえ」の位置を示した図とそれぞれの部首を持つ漢字を示したものを線でつなぐ。

イ 示された漢字に使われている部首の名前を「部首索引」で調べる。

④ 同じ部首に載っている漢字を調べる。

ア 「魚へん」の字を読んだり書いたりする。

イ 「鳥」の部首の漢字を読んだり書いたりする。

⑤ 漢字の成り立ちを楽しんで調べる。

ア 絵を元に作られた漢字と元になった絵を同時にいくつか示し、どの絵からどの漢字が出来たかを調べる。(「北、休、比、光」)

イ 「飛、長、集」の成り立ちを漢字辞典で調べる。

⑥ 漢字辞典で言葉を集める。(熟語、四字熟語)

ア 上の文字と部首を示し、漢字二文字の言葉を集める。

イ 四字熟語の意味と四字熟語の一部を省いたものを示し、言葉を完成させる。

<例>・自分で自分のことを褒めること。→自□自賛

・生活に必要なものを自分で作り出してまかなうこと。→自給自□

・自分でおかした悪いことの報いを、自分だけに受けること。→自業自□

⑦ 同じ部首でも形が変わって使われている漢字を示し、同じ部首の漢字を見つける。

ア 「会、池、恭、快、泉、泰、人、体、思」→「人」「水」「心」のどの部首になるかグループ分けする。

イ 「刀、切、分、公、列」→部首が違う漢字を探す。